

音楽を聴いて言葉で伝える！ ワークショップ



どんなことを
するの？

♪東京交響楽団の「モーツァルト・マチネ」コンサートを聴いて、感想などをレポートにまとめます。

♪プロのライターである飯田有抄さんがレポートの書き方やコツを教えてください。皆さんが書いた文章にアドバイスももらえます！

♪書いた文章は、ミューザのSNSから発信されるかも！

文章を綴って
得られるもの

♪音楽は消えてしまうけど、書いた自分の言葉を思い出として残せる

♪モヤモヤした思いに言葉で輪郭を与えられる

♪自分の「素敵」や「推し」を人と共有できる

こんな人にも
オススメ

♪SNSで何かを発信してみたいけど、何かネタがほしい

♪自分の気持ちを言葉にしてみたいけど、ちょっと自信がない

♪最近クラシック音楽に興味が湧いてきた！

▼前回参加者が書いたレポートはこちら！▼

モーツァルト・マチネ第56回目の公演となる今回は、東京交響楽団がモーツァルトの楽曲を3曲披露した。

一曲目は、交響曲第34番。推進力のある曲想は、冬から春へ移り変わる今の季節にぴったりだ。息のあったオーケストラのアンサンブルはまるで1つの楽器のようだった。

二曲目は、『ヴァイオリンとオーケストラのためのアダージョ』。➔

ヴァイオリンのソロは、ときに夢見心地で、ときに苦しみを嘆いているようで、様々な表情をみせた。それに優しく相槌を打つようなオーケストラも美しかった。三曲目は、交響曲第29番。特に惹かれたのは、中盤の「アンダンテ」のホルンとオーボエだ。温かみのある音色が高貴で朗らかな曲想とよく合っていた。終盤は祝祭的な雰囲気が高まり、華やかなクライマックスで幕を閉じた。

(高校2年生)

前回参加者の
アンケートから

音楽を聴いて、自分の感じたもやもやを言葉として表現することができるようになった。

自分目線だけでなく、読む人目線で、思いやりを持って文章を書くことも大切だとわかった。